

P-11

小児 B 型インフルエンザ感染症における麻黄湯の臨床効果の検討

Clinical Effectiveness of Maoto for Treatment of Influenza B Infection in Children

○鳥海 善貴¹⁾, 亀井 勉^{2),3),4)}, 村田 幸治^{3),5)}, 高橋 育子^{1),6)}, 鈴木 信孝⁷⁾

- 1) 大村病院 小児科, 2) ヴィアドリナ欧州大学, 3) 島根難病研究所, 4) 長崎大学,
5) 金沢大学大学院医学研究科, 6) 東邦大学医療センター 佐倉病院 小児科,
7) 金沢大学大学院医学研究科 臨床研究開発 補完代替医療学講座

We evaluated the effectiveness of Maoto for influenza B infection in children. Patients presenting pyrexia and diagnosed influenza B with a rapid diagnostic kit were classified as following groups: 1. Maoto-treated, 2. Oseltamivir-treated, 3. Maoto+oseltamivir-treated, 4. zanamivir-treated, and 5. Maoto+zanamivir-treated. As for the duration of fever after administration, no significant difference was observed between groups. The results suggested that the effect of a single administration of Maoto on shortening the duration of fever is almost equivalent to those of oseltamivir or zanamivir.

【目的】

今回我々は、小児 B 型インフルエンザ感染症に対して麻黄湯を投与し、その臨床効果を検討した。

【方法】

平成 21 年 1～5 月に、発熱を呈して当科を受診し、インフルエンザ迅速診断キットで B 型陽性が判明し、発熱後 48 時間以内に治療が開始された患者を対象とした。対象者を、①麻黄湯投与群：ツムラ麻黄湯エキス顆粒(医療用) (TJ-27) 0.18g/kg/日、②オセルタミビル投与群：オセルタミビル 4mg/kg/日、③麻黄湯+オセルタミビル投与群：TJ-27 0.18g/kg/日+オセルタミビル 4mg/kg/日、④ザナミビル投与群：ザナミビル 20mg/日、⑤麻黄湯+ザナミビル投与群：TJ-27 0.18g/kg/日+ザナミビル 20mg/日に分類し、治療開始から解熱までの時間（以下、開始後解熱時間）を各群で比較検討した。また、⑥麻黄湯、オセルタミビル、ザナミビルのいずれも投与しなかった群を加え、全発熱時間についても各群で比較検討した。

【結果】

開始後解熱時間は、①～⑤群の各群間において有意差は認めなかった。全発熱時間は、①～⑤の各群間で有意差は認めなかったが、⑥群に対しては、①～⑤群のいずれも有意に短縮していた。

【結論】

小児 B 型インフルエンザ感染症に対し、麻黄湯はオセルタミビルやザナミビルと同等の解熱効果があると考えられた。インフルエンザ迅速診断キットで B 型であれば、麻黄湯は選択肢の一つとしてよいと思われる。